

学会企画シンポジウム 6

縦断データによる研究の現在とこれから

——教育心理学研究における企業や自治体等との連携の必要性と課題——

企画・話題提供：寺澤孝文（岡山大学）

企画・司会：佐藤有耕（筑波大学）

話題提供：宮本友弘（東北大学）

話題提供：岡田謙介（東京大学）

話題提供：小塩真司（早稲田大学）

話題提供：河村茂雄（早稲田大学）

企画趣旨：

因果関係を比較的直接議論できる縦断データの重要性は広く認められてきたが、データ収集にかかるコストの大きさから研究は限定されてきた。一方、文部科学省の GIGA スクール構想のもと、2020 年前後に、全国の小中学校にネット接続可能な一人一台の情報端末が配備され、学習データをはじめ意識データなど大量の反応データが毎日のように集約できる状況が生まれている。つまり、児童生徒の大量の縦断データが教育ビッグデータとして集約される状況が非常に速いスピードで全国的に広がっている。本シンポジウムでは、これまでの縦断データによる研究を踏まえ、それらがビッグデータの活用により変容していくイメージとそこで直面する課題を学会員で共有することを目指す。特に、ビッグデータの集約には企業や自治体等との連携が必須になる。その連携の実際も共有し、教育DXの進展に向けて学術が果たす役割を考えるきっかけを学会員に提供する。